



講演会「不安が強い子への関わり方」

講師 安藤 みゆき先生 (茨城女子短期大学保育科教授)

平成31年3月11日(月)に、茨城県精神保健福祉センターにて、講演会を行いました。テーマは「不安が強い子への関わり方」として、公認心理師である安藤みゆき先生に講演いただきました。安藤先生は、以前、児童心理治療施設にて長年セラピストをされていました。児童心理治療施設とは、虐待などを受けた精神的に不安定な子供たちを治療しながら生活をする施設です。その時関わられた子供たちの事例を踏まえながら、発達障害の特性や不安からくる子供の行動特性、そしてアタッチメント理論などをわかりやすくご紹介いただきました。



アタッチメントは、一般的に親子関係の愛着のように理解されていますが、実際には、親子だけでなく保育園・幼稚園などの養育者・支援者と子供との関係の中で築くことができる関係です。

関係性の中での心理的接触を意味するアタッチメントは、子供の小さい時に大きな影響を及ぼしますが、実際にはアタッチメントの形成は成長とともに書き換えられ、そして様々なアタッチメントの影響を受けて総合されていくことで、人間形成に大きな影響をきたすことも学びました。

講演の間にワークを挟んでいただき、あっという間の2時間でした。私たち大人も子供の不安に影響を受けること、そしてその不安の解消の仕方を具体的に指導していただき、大人の役割の重要性を意識しながら、大人自身も弱い存在であることを改めて認識しました。



参加者の感想から

今回、保護者や支援に関わる保育士や指導員、行政の方など40名以上の参加をいただきました。アンケートには、その全員からご丁寧な感想が寄せられました。

安藤先生のご講演内容も具体的な事例を交えて、すぐに役立つ内容が盛りだくさんでした。そのため、参加者の方々も様々な感銘を受けたことと思いますが、改めて参加者一人一人の関心の高さと理解力の高さを感じ、私たちも講演活動の意義を感じています。

今後も、様々なトピックスに合わせて講演会を継続させていこうと思っておりますので、是非ご参加ください。

参加者の方々からの感想を一部抜粋させていただきます。

- ・ 具体的な事例を交えてくださり、大変わかりやすくあっという間の時間でした。いままでモヤモヤしていたことが、先生のお話でスッキリしました。
- ・ アタッチメントは、親だけでなく養育者と結ぶ子供との信頼関係であることが重要であることを改めて学習しました。また、子ども自身の不安だけでなく、大人自身の不安をコントロールするために、自分が不安に思っていることを認知し、理解し、コントロールしていくことに気づかされ、今から自分のできることを考えていこうと思います。